

# SYLLABUS

2021 年度 秋学期

# **教職課程**

青森公立大学

経営経済学部

## 目 次

年次	授業科目名	単位	区分	担当	ページ
1	教育原論	②	必修	佐藤 三三	1
	生徒指導の理論と方法	①	必修	内海 隆	4
2	教育課程論	①	必修	友田 博文	6
	教育相談の理論と方法	①	必修	鈴木 郁生	8
	特別支援教育論	①	必修	神山 博	10
	法律と人間	②	必修 (公民)	高橋 基樹	25
	宗教哲学	②	必修 (公民)	井川 昭弘	28
3	進路指導の理論と方法	②	必修	(春学期開講)	-
	職業指導	④	必修 (商業)	内海 隆	-
	総合的な学習の時間の指導法	①	必修	坂本 徹	12
	中等教科教育法 (商業Ⅱ)	②	必修 (商業)	砂場 孝一郎	14
	中等教科教育法 (公民Ⅱ)	②	必修 (公民)	長谷川 光治	17
4	教育実習事前事後指導	①	必修	内海 隆	19
				鈴木 郁生	
	教育実習	②	必修	内海 隆	21
				鈴木 郁生	
	教職実践演習 (中・高)	②	必修	内海 隆	22
				鈴木 郁生	

〔科目名〕 教育原論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 佐藤三三	〔オフィス・アワー〕 時間:最初の講義の際に伝える 場所:502 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 教師を目指す上での基礎・基本となることを確実に押さえるとともに、教育学的な思考を身に付け、日常の社会現象の中にある教育現象を見る眼と力を養うとともに、一人一人が教育についての問題意識と自らの意見を持てるような授業を展開する。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 学校教育・教員論を中心とした「教職概論」の講義を踏まえ、それをさらに教育の原論的視点から深め、視野を広げる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 教育の持つ意味、目的、理念等、教育に関する基礎的理解とわが国及び諸外国における教育の歴史の概観、今日の教育の諸課題と展望を学ぶ。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 板書を丁寧にする。		
〔教科書〕 使用しない		
〔指定図書〕 なし		
〔参考書〕 講義の中で、随時、紹介する		
〔前提科目〕 なし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)  レポートおよび出席状況。  欠席が全講義回数数の三分の一(4回以上)を超える場合は単位認定の対象外とする		
〔評価の基準及びスケール〕 A:80 点以上 B:70～79 C:60～69 D:50～59 E:50 点未満		

<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>本講義が、学生の皆さんにとって、教職・教員を目指す強い動機付けになり、学校教育に対する理解が深まるように精一杯努力して講義する。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 講義の目的と授業の進め方 内 容: ・教育原論について</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育(教育行為)を考える 内 容: ・成長と学習、教育の必要性と可能性</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育観の類型 内 容: ・個人、国家・社会、文化的教育観</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育の目的 内 容: ・教育目的論の構造、法律にみる教育目的</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 近代以前の諸外国の教育と教育思想 内 容: 古代ギリシャ、ローマの教育、キリスト教の教育観</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 近代以降の諸外国の教育と教育思想 内 容: ・ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ等の教育思想</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 近代以前のわが国の教育と教育思想 内 容: ・記紀判読による大学寮と貢挙、幕藩体制と教育</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 近代以降のわが国の教育と教育思想 内 容: ・近代国家と教育、大正時代の新教育</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 現代の教育と教育基本法体制 内 容: ・教育基本法と戦後の教育</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 歴史から展望する新しい教育 内 容: ・国家と教育、社会と教育</p> <p>教科書・指定図書</p>

第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):家庭教育の現状と課題          内 容:・子育ての変容と家庭教育、子どもの貧困</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会教育、生涯学習の現状と課題          内 容:・教育基本法と生涯学習、社会教育と生涯学習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育課程と学習指導要領          内 容:・教育内容の変遷と学習指導要領</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):学校教育の現状と課題          内 容:・学校の機能と役割、学校の組織と経営、後期中等教育(高等学校)の機能・役割の変遷</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育改革の動向と課題          内 容:・現代社会の教育課題(生きる力、キャリア教育)と教育改</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	レポート

<b>〔科目名〕</b> 生徒指導の理論と方法	<b>〔単位数〕</b> 1 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職科目(必修)
<b>〔担当者〕</b> 内海 隆 Uchiumi Takashi	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業時に提示 <b>場所:</b> 504 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 学校は、生徒にとって教科を学ぶ場であると同時に人格形成の場でもある。この人格形成をさまざまな形で指導・援助しようとするのが生徒指導の基本である。 本講義では、人格形成の途上にある生徒を理解することからはじめ、できる限りの確かな生徒指導・援助するための手がかりとなる実践的知識と方法を教授する。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 教科を学ぶ学習指導と生徒の人格形成を支援する生徒指導は、教育の要である。その生徒指導は、生徒一人一人が集団生活において円滑に適応し、学習活動を維持していく上での基盤となるものである。その意味で、これから履修する「教育方法論」や「特別活動の理論と方法」、「進路指導の理論と方法」などの科目と密接に関連するので、今後の学習を効果的に進めるためにも大切である。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 生徒指導とは何か、生徒指導の意義という基本的なことを、単なる理論上だけでなく、実際の教育現場にあるという立場で理解し、考えていけるようになることを中間目標に設定している。 最終目標は、生徒指導を効果的に進めていくための具体的な方法(例えば、授業場面、特別活動場面における生徒との向き合い方、父母や地域の関係機関等との連携の取り方など)について、実践的な場面に即して対応できるようになることを想定している。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 講義では、できる限り参考となる事例を提示しながら授業内容に深みを持たせるように工夫する。また、事前に講義内容をまとめたプリント冊子を配布するので予習・復習に活用してほしい。		
<b>〔教科書〕</b> 使用しない。講義内容に関して講師が作成した「プリント」(冊子)を事前に配布する。		
<b>〔指定図書〕</b> 文部科学省『生徒指導提要』(平成 22 年 3 月) * 入手することを勧める。		
<b>〔参考書〕</b> 講義の際に随時、紹介する。		
<b>〔前提科目〕</b> 「教職概論」(1年次春学期開講科目)は、履修していることが望ましい。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 毎時の授業への参加態度をはじめとする個人での発表(2割)のほか、評価レポートを提出(8割)してもらい、総合的に評価する。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> A: 100～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59～50 点 F: 49～ 0点		
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 生徒指導に関する理論だけでなく、学校現場でのアップツーデート事柄も取り上げるので、自分たちの中・高校生時代の生徒指導場面や出会った先生方を思い出しながら、どう生徒と向き合うことが望ましいのかを各自が考えてほしい。		
<b>〔実務経歴〕</b> 該当なし。		

授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション(講義の概要と進め方)</p> <p>内 容: 生徒指導の意義 生徒指導とは何か</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 生徒指導の歴史と理論</p> <p>内 容: 生徒指導の歴史 生徒指導の理論的背景</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 学校における生徒指導</p> <p>内 容: 生徒指導の組織的対応(「チーム学校」) 教科等における生徒指導</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 生徒理解と生徒指導</p> <p>内 容: 生徒理解の観点 問題行動の理解と分類</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 生徒指導の事例(I)</p> <p>内 容: 中高生における問題行動(薬物、性の逸脱行動、長期欠席・不登校、引きこもりほか)</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 生徒指導の事例(II)</p> <p>内 容: 教育現場でのいじめと「いじめ防止対策推進法」 自律神経症、発達障害(特別支援教育に関する合理的配慮ほか)への対応</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 生徒指導の課題と動向</p> <p>内 容: 生徒指導と道德教育 生徒指導とキャリア教育 ティーチングとコーチングについて</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	実施しない。課題レポート提出

<b>〔科目名〕</b> 教育課程論	<b>〔単位数〕</b> 1 単位	<b>〔科目区分〕</b> コモンベーシック (教職科目)
<b>〔担当者〕</b> 友田 博文	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間:集中講義 場所:	<b>〔授業の方法〕</b>
<b>〔科目の概要〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程は、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。</li> <li>・ 教育課程論においては、学校の教育目標の設定、指導内容の組織及び授業時数等の配当が教育課程編成の基本的な要素となっている。</li> <li>・ 平成 21 年 3 月に告示された新しい高等学校学習指導要領における教育課程編成の目標を理解するとともに、教育課程の意義や役割について理解する。</li> <li>・ 平成 25 年 4 月から高等学校において新学習指導要領が本格実施されており、旧学習指導要領との違いも比較しながら高等学校の教育課程論を展開していく。</li> </ul>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程は高校における教育活動を定めるものである。このためには、学習指導要領の趣旨や目標をよく理解する必要がある。学校の状況や生徒の実態をよく理解する視点を身に付けることができる。</li> <li>・ 特色ある学校づくりを進めるためには、なにより教育課程編成の創意工夫が欠かせない。教育課程論を学ぶことにより、教員になった際に、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程を編成することができる技能・知識を身に付けることができる。</li> </ul>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>教育課程論</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程の意義や役割を理解できたか。</li> <li>・ 新学習指導要領の改訂の趣旨・改訂内容を理解できたか。</li> <li>・ 教育課程編成のための各教科、総合的な学習の単位数の概要を理解できたか。</li> <li>・ 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項を理解できたか。</li> <li>・ 中高一貫教育の中等教育学校等における教育課程の基準を理解できたか。</li> <li>・ 生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程編成のためのノウハウを身に付けたか。</li> <li>・ 諸外国の高校教育課程編成の概況を把握できたか。</li> </ul> </li> </ul>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程論は学習する内容が多いので、全体像をできるだけ把握できよう、パワーポイントによって図や表を引用して教育課程論の理解を深めたい。</li> </ul>		
<b>〔教科書〕</b> 高等学校学習指導要領解説「教育課程編」		
<b>〔指定図書〕</b> 必要なときに提示		
<b>〔参考書〕</b> 必要なときに提示		
<b>〔前提科目〕</b> なし		

<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中に課題あるいはレポートを書く</li> <li>・ 内容の詳細については、教育課程の講義開始時に提示される。</li> <li>・ 授業全体を通して総合的に評価する。</li> <li>・ 定期試験は講義や演習内容について論述試験を行う。</li> </ul>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中の課題あるいはレポートを評価に加える。</li> <li>・ 配点等は、担当の教員から提示される。</li> </ul>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校の教員免許取得に必要な教育課程論は、高校における教育内容を定める極めて重要な科目である。教育課程論の内容・趣旨を十分理解することによって、高校教員となった時に、生徒の幅多様な学習ニーズに対応した特色ある教育課程を編成する力を身に付けることができる。</li> <li>・ 受講する学生は2年次となり、これまで所定の教職科目を履修してきているので、それらの知識・技能を生かし、教育課程編論の具体的理論を学んでほしい。</li> </ul>	
<p><b>〔実務経歴〕</b></p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育課程編成の基準について 内 容: 学習指導要領改訂の趣旨、要点</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説総則編</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 高等学校の教育活動における教育課程の意義と役割 内 容: 教育課程の変遷、教育課程の意義と役割</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説総則編</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育課程の編成及び実施 その1 内 容: 教育課程編成の一般方針、各教科・科目及び単位数等、各教科・科目の履修等</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説総則編</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育課程の編成及び実施 その2 内 容: 各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動の授業時数等、教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項、単位の修得及び卒業の認定、通信制について</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説総則編</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育課程編成の手順と評価 内 容: 教育課程編成の手順と評価、中等教育学校等における教育課程の基準</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説総則編</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 演習「特色ある学校づくりのための教育課程の編成」 内 容: 特色ある学校づくりのための教育課程編成の創意工夫</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説総則編</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 演習「諸外国の教育課程と教育課程改善の方向性」 内 容: 諸外国にみる教育課程編成と高校教育及び教育課程の今後の改善方向について</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説総則編</p>

<b>〔科目名〕</b> 教育相談の理論と方法	<b>〔単位数〕</b> 1 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職課程(必修)
<b>〔担当者〕</b> 鈴木郁生 Ikuo SUZUKI	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業開始時に指示する <b>場所:</b> 614 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 本科目は、教育相談の理論と、その方法について学ぶ。これらの内容は、生徒達の抱える問題を理解し、生徒達を適切に援助していくために必要とされる知識である。具体的には、カウンセリングの理論や技法について学び、さらにいじめや不登校などの代表的な問題について理解を深める。更に、ロールプレイなども行いながら、教育相談の全体像について考察する。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 本科目は、教職課程における必修科目である。生徒達は学校の内外で様々な問題にぶつかるものであり、教師がそうした生徒達を適切に支援していくことが求められている。そのため教師として生徒と接するにあたっては、教育相談の理論や技法を学ぶことが重要である。また、相談を専門的に行うかどうかに限らず、カウンセリングマインドを理解し、それを基とした教育姿勢は教師として不可欠なものであろう。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 本科目の目標は、教育相談の理論と方法についての基本的な知識を修得することである。さらにカウンセリングマインドを理解し身につけていくことも期待している。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 良好な評価を頂いた。良い点として指摘された内容は、本年度も授業に取り入れていく予定である。		
<b>〔教科書〕</b> なし		
<b>〔指定図書〕</b> 『カウンセリングの技法』 國分康隆 誠信書房 『カウンセリングの理論』 國分康隆 誠信書房		
<b>〔参考書〕</b> 授業時に適宜紹介する		
<b>〔前提科目〕</b> なし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> レポートによる評価を行う。また授業における課題への取り組みも評価の対象とする。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> A: 100～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59～50 点		

F: 49～ 0点

**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**

学生自身に考えさせ、理解を深めていくような授業を心掛けたい。受講者も未来の教師としての心構えを持って欲しい。また宿題やロールプレイに対しても積極的に取り組んでもらいたい。

加えて、コロナ禍であるため、授業スケジュール等に変更が生じる可能性があること、それに関連して課題が課されることもありうることを理解してもらいたい。

**〔実務経歴〕**

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション・性格の理論 内 容: 初回の授業であり、本授業の目的と授業展開についてオリエンテーションを行う。また、教育相談の趣旨、性格・人格の理論について概説する。  教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 人格把握の手法 内 容: 知能検査・性格検査などを通し、人格把握の手法と問題点について解説する。  教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): カウンセリングの理論 内 容: カウンセリングに関わる理論や現象、心理療法などについて学ぶ。  教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): カウンセリングの技法 内 容: カウンセリングの構造や基本五技法について学ぶ。  教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): カウンセリングの実際 内 容: カウンセリングが教育現場で実際にどのように行われているのか、事例を通して学習する。  教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 教育における問題行動について 内 容: 不登校・いじめ・非行など、教育における問題行動について学び、それをカウンセリング事例として考える。  教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 教育相談の実際 内 容: いじめ・不登校・非行といった問題行動に対しどのように接するのかをロールプレイを通して学習し考察する。  教科書・指定図書

<b>〔科目名〕</b> 特別支援教育論	<b>〔単位数〕</b> 1 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職科目(必修)
<b>〔担当者〕</b>	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間: 場所:	<b>〔授業の方法〕</b>
<b>〔科目の概要〕</b> <p>本科目では、障害者の人権と特別支援教育の基本的な考え方を学ぶ理解することから始め、特別支援教育の制度と歴史、障害の特性と程度に応じた教育のとらえ方と方法を学んでいく。これらを通して、一人ひとりの教育を受ける権利と教育の必要性が障害の有無によらないことを理解したうえで、教職を目指す学生として、特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒との望ましい関わり方を考えていく。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>発達障害を含む様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒は、通常の学級にも在籍しているが、彼らが授業等の学習活動に主体的に参加し学ぶことができるよう、学習上および生活上の特性と困難を理解したうえで、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していく必要がある。</p> <p>本科目を学ぶことで、これらの対応をするために最低限必要な知識や支援方法を理解することができる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>最終目標:          個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p> <p>中間目標:          1. 発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。          2. インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する理念、歴史、制度、教育課程や支援の方法を理解する。          3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上および生活上の困難とその対応を理解する。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>「毎回のレポート提出で、授業の内容がより深められる」「課題があることで、自分で調べて知識をつけられる」「子どもたちの障害などについて考えるととても良い機会になった」などの積極的な意見が多かったのは素晴らしいことです。課題として示された事例について実際に自分で考え、レポートにまとめることで、より深い理解につながりますので、是非積極的な受講を求めます。</p> <p>「復習の時間が長すぎる」「授業の後半のペースがとても早い」という意見がありましたので、時間配分を見直したいと思います。</p>		
<b>〔教科書〕</b> 特別支援教育の基礎, 松山 郁夫 編著, 芳野 正昭 編著, 学文社, 2020. ISBN:9784762029875		
<b>〔指定図書〕</b>		
<b>〔参考書〕</b> 特別支援教育の基礎理論 第2版, 斎藤佐和, 教育出版, 2016.		

〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)  授業中の課題および定期試験(または期末レポート)により総合的に評価する。	
〔評価の基準及びスケール〕  履修規定に準ずる。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕  実践的に考える授業としたい。積極的に授業に参加するようお願いいたします。	
〔実務経歴〕  なし	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 障害児者の人権および発達と教育 内 容: ・特別支援教育の基本的な考え方、・障害のとらえ方と社会の役割</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公教育の進展と障害のある子どもの教育 内 容: ・特殊教育の成立と課題</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特殊教育から特別支援教育への転換 内 容: ・最近の障害者施策をめぐる国内外の動向と制度整備 学校教育法改正・障害者基本法・発達障害者支援法・障がい者制度改革推進会議</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別支援教育を支える仕組みと専門性 内 容: ・障害別教育の概要(視覚、聴覚、知的、発達、肢体、病弱)、・発達の過程とアセスメントの意義・目的、個別の教育支援計画、特別支援教育コーディネーター、特別支援連携協議会等</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育課程の基本要素と個別の教育支援計画・指導計画 内 容: ・キャリア教育と進路指導・自立活動・情報機器の活用、・個別の指導計画作成の課題と方法</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 後期中等教育段階での生徒の現状と特別支援教育の課題 内 容: ・教育的支援、キャリア教育と就労支援</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): わが国の特別支援教育の課題と展望 内 容: ・障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の支援、・近年の教育現場での課題と UDL の動き、・インクルーシブ教育の制度化と法整備</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	

<b>〔科目名〕</b> 総合的な学習の時間の指導法	<b>〔単位数〕</b> 1 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職科目(必修)
<b>〔担当者〕</b> 坂本 徹	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> 講義、演習
<b>〔科目の概要〕</b> 総合的な学習の時間の目標である、生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにするための理論と高等学校を中心とした実践的指導法及び評価について学ぶ。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を変えていくための資質・能力の育成を目指すものである。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画作成の考え方と基礎的能力を身に付けるとともに評価の留意点を理解することを学ぶ。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> ① 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。 ② 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身につける。 ③ 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b>		
<b>〔教科書〕</b> 高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等		
<b>〔指定図書〕</b> 使用しない		
<b>〔参考書〕</b> 講義の中で必要に応じて紹介する		
<b>〔前提科目〕</b> なし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> レポートおよび出席状況により評価する		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> A : 100～80点 B : 79～70点 C : 69～60点 D : 59～50点 F : 49～ 0点		

<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>  単なる知識の伝達に留まることの無いよう、私自身の経験に基づく具体的な事例を紹介するとともに、ワークショップの活用によって、実践的な力をつけられるような授業を心がける。</p> <p>「総合的な学習の時間」が設定された経緯や、高等学校教育における「総合的な探求の時間」の意義を理解するとともに、実際の授業運営にあたって必要な知識と技術を習得し、加えて人間的な魅力として豊かな感性を磨いてほしい。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>  該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):  内 容: オリエンテーション  ・高等学校の教育目的と学習指導要領  教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):  内 容: 総合的な学習の時間設定の経緯とねらい  ・学習指導要領における総合的な学習の時間の目標を具体化するための指導内容と指導方法  教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):  内 容: 総合的な学習の時間の展開  ・学校全体のカリキュラムと各教科との接点指導、及び関連づけの体系化  教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):  内 容: 高等学校における実践事例と指導法  ・総合的な学習の時間の実践事例と指導案、生徒へのアンケートやインタビュー事例  教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):  内 容: 指導計画案の作成  ・課題設定と指導計画案作成  教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):  内 容: 模擬授業  ・模擬授業とピアレビュー  教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):  内 容: 総合的な学習の時間の評価(まとめ)  ・ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価、生徒相互の評価を取り入れた主体的な言語活動のあり方  教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等</p>
試験	<p>実施しない</p>

[科目名] 中等教科教育法 ( 商 業 II )	[単位数] 2 単位	[科目区分]
[担当者] 砂 場 孝一郎 Sunaba Koichiro	[オフィス・アワー] 時間 : 金曜日 12:00 ~ 12:50 場所 : 非常勤講師控え室	[授業の方法] ①
[科目の概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校教科「 商 業 」の指導法</li> <li>・ 商業教育の理念、教育課程の編成方法、教育(授業)方法などについての認識と理解を得ること</li> <li>・ 教科「商業」の、教育についての学習指導能力の基礎を培うことを目的に、講義と演習を行う。</li> <li>・ 現行学習指導要領は、2022年度(令和4年度)から学年進行で、新学習指導要領に切り替わっていく。そして、2019年度(令和元年度)から、一部を移行措置として実施してもよいこととなった。このことについても、学生にはしっかりと伝えていかなければならない。</li> </ul>		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業の専門高校では、20科目の専門科目が準備されている。</li> <li>・ この20の科目は、大きく4つの分野と基礎的・総合的な内容に分かれ、それぞれの科目が対応している。</li> <li>・ 商業の教師は、広い見識でこれらの科目を通して商業教育を実践しなければならない。</li> <li>・ よって、商業の教師を目指す学生は、大学において、関連する教育法規と専門的な商業の知識・技術を体系的に学ばなければならない。</li> <li>・ そして、学んだ者だけが、教員採用試験を受験する資格が得られ、教師への道が拓かれる。</li> </ul>		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] <p>1 中間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業教育の歴史的変遷を踏まえ、学習指導要領の内容を学び、商業教育の現代的課題 及び今後の方向性を理解させる。</li> <li>・ 商業が現代において、どのような役割を持ち、どのような社会貢献ができるかを理解させる。</li> </ul> <p>2 最終目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新学習指導要領への移行期間であるので、新しい時代を学ぶ心の準備の重要性を理解させる。</li> <li>・ 商業科教員としての資質 ( 知識 ・ 技術 ・ 心 ) の育成の重要性を理解させる。</li> </ul>		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生には、授業評価の基準が明確でなければならない。</li> <li>・ 板書の多い授業であるが、板書の重要性を理解できる学生であってほしい。</li> </ul>		

<p>〔教科書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校学習指導要領解説 商業編、ビジネス基礎、高校簿記、情報処理 以上4冊</li> <li>・ 上記教科書は、春学期 中等教科教育法（商業Ⅰ）において、4冊とも購入済みである。</li> </ul>	
<p>〔指定図書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な文献を随時指示する。</li> </ul>	
<p>〔参考書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青森県の教職・一般教養 過去問 当該年度版 協同教育研究会:編 協同出版株式会社</li> <li>・ 青森県の教職教養 参考書、青森県の一般教養 参考書 協同教育研究会:編 協同出版株式会社</li> </ul>	
<p>〔前提科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な教職科目を、修得または履修していること。</li> </ul>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学修の課題について ～ 模擬授業実施の準備として、学習指導案・板書内容等を作成し、提出させる。</li> <li>・ 評価の方法 ～ 学生の評価は、観点別(関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解)評価に基づいて厳正に行う。</li> <li>・ テストについて ～ 最後の第15回の授業の中で、筆記試験(知識のまとめ)の方法で小テストを実施する。</li> </ul>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価の基準は、前述の「科目の到達目標」にどれだけ届いたかを確認するために作成する。</li> <li>・ 具体的には、観点別(関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解)評価の項目に基づいて絶対評価を行う。</li> <li>・ そして、学生の授業内活動・授業への参加貢献が適切にできていたか否かによって、評価される。また、小テストや出席(欠席)時数のみで、評価されることはない。</li> </ul>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校教育に関する文部科学省の施策を理解し、教育に興味・関心を持てる高校教師を育成したい。</li> <li>・ 学生に対しては、教員免許取得のみを目的とするのではなく、教員採用試験の合格をめざしてほしい。</li> </ul>	
<p>〔実務経歴〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当なし</li> </ul>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解 内 容: 商業教育の必要性と意義</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解 内 容: 教科「商業」の科目「ビジネス基礎」指導の実際</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、ビジネス基礎</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解 模擬授業・合評会 内 容: 教科「商業」の科目「ビジネス基礎」指導の実際 学習指導案の作成 と 模擬授業</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、ビジネス基礎</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解          内容: 教科「商業」の科目「簿記」指導の実際</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、高校簿記</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解 模擬授業・合評会          内容: 教科「商業」の科目「簿記」指導の実際          学習指導案の作成と模擬授業</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、高校簿記</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解          内容: 教科「商業」の科目「情報処理」指導の実際</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、情報処理</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解 模擬授業・合評会          内容: 教科「商業」の科目「情報処理」指導の実際          学習指導案の作成と模擬授業</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、情報処理</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解          内容: 教科「商業」の科目「マーケティング」指導の実際</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解 模擬授業・合評会          内容: 教科「商業」の科目「マーケティング」指導の実際          学習指導案の作成と模擬授業</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解          内容: 教科「商業」の科目「ビジネス法規」指導の実際</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解 模擬授業・合評会          内容: 教科「商業」の科目「ビジネス法規」指導の実際          学習指導案の作成と模擬授業</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業科目の学習指導方法の理解          内容: プレゼンテーション技術</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育の方法と技術          内容: 教師の資質および教師という職業について</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教師に求められる資質と生徒の学習評価          内容: 商業科教師への期待と観点別評価の方法</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 商業教育の指導方法のまとめ          内容: 中等教科教育法(商業Ⅱ)全体の総括          小テストの実施</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」</p>
試験	<p>最終授業(第15回)の中で、小テスト(60分)を実施する。</p>

[科目名] 中等教科教育法（公民Ⅱ）		[単位数] 2単位	[科目区分]
[担当者] 長谷川 光治	[オフィス・アワー] 時間: 場所:		[授業の方法] ◎ 講義・実習(模擬授業)
[科目の概要] 高等学校「公民」の授業の組み立て、学習指導案作成方法を理解し、実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行い、高等学校教育現場における「公民」の実践的な教科指導方法を学ぶ。			
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか] 高等学校「公民」の教科指導の、授業の組み立てや学習指導案作成を学ぶことは、教育実習に向けての準備、学校現場での実践力となる。			
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)]  (1)教材研究と授業の組み立て方法を理解する。 (2)公民科の学習指導案を作成することができる。 (3)模擬授業を行い、改善のための、評価をする。			
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 学制の理解深度を確認しながら、指導案作成、教材研究、模擬授業の展開の具体的方法について授業をすすめていく。			
[教科書] 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編 平成30年7月 文部科学省(東京書籍 1000円)			
[指定図書]			
[参考書]			
[前提科目] 中等教科教育法（公民Ⅰ）			
[学修の課題、評価の方法](テスト、レポート等) 教材の発掘事例、指導案の作成、模擬授業、「分析・考察シート」、 「自己評価シート」、課題レポート			
[評価の基準及びビスケール] 指導案・模擬授業・「模擬授業分析・考察シート」・「模擬授業自己評価シート」・課題レポート を総合的に評価。 (A:100～80 B:79～70 C:69～60 D:59～50 E:49～0)			
[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望] 「公民」の授業者となって教壇にあがることを意識し、授業に取り組むことを望みます。			
[実務経歴] 該当なし			

授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ（何を学ぶか）：学習評価</p> <p>内 容：学習評価の意義と目的、観点別学習評価、学習指導案と学習評価</p> <p>教科書・高等学校学習指導要領解説 教員作成資料</p>
第2回	<p>テーマ（何を学ぶか）：授業の組み立てと教材研究</p> <p>内 容：教科書の活用と教材の発掘。</p> <p>教科書・高等学校学習指導要領解説 教員作成資料</p>
第3回	<p>テーマ（何を学ぶか）：「公民」の学習指導の特性(1)</p> <p>内 容：学習活動の形態。</p> <p>教科書・高等学校学習指導要領解説 教員作成資料</p>
第4回	<p>テーマ（何を学ぶか）：「公民」の学習指導の特性(2)</p> <p>内 容：マスメディアと情報機器の活用。</p> <p>教科書・高等学校学習指導要領解説 教員作成資料</p>
第5回	<p>テーマ（何を学ぶか）：学習指導案の事例</p> <p>内 容：「公民」各科目の指導案の事例。目標の設定、指導計画と観点別評価。</p> <p>教科書・高等学校学習指導要領解説 教員作成資料</p>
第6回	<p>テーマ（何を学ぶか）：学習指導案の作成(1)</p> <p>内 容：単元の目標・指導計画・評価。本時の学習展開。</p> <p>(教科書・高等学校学習指導要領解説 教員作成資料)</p>
第7回	<p>テーマ（何を学ぶか）：授業テーマの設定</p> <p>内 容：模擬授業に向けて、授業テーマを設定。教材の発掘と研究方法の検討。</p> <p>教科書・高等学校学習指導要領解説 教員作成資料</p>
第8回	<p>テーマ（何を学ぶか）：学習指導案の作成(2)</p> <p>内 容：模擬授業のための学習指導案(細案)の作成。</p> <p>教科書・高等学校学習指導要領解説 教員作成資料</p>
第9回	<p>テーマ（何を学ぶか）：模擬授業 (1)</p> <p>内 容：指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。</p> <p>教科書・</p>
第10回	<p>テーマ（何を学ぶか）：模擬授業 (2)</p> <p>内 容：指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。</p> <p>教科書・</p>
第11回	<p>テーマ（何を学ぶか）：模擬授業 (3)</p> <p>内 容：指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。</p> <p>教科書・</p>
第12回	<p>テーマ（何を学ぶか）：模擬授業 (4)</p> <p>内 容：指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。</p> <p>教科書・</p>
第13回	<p>テーマ（何を学ぶか）：模擬授業 (5)</p> <p>内 容：指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。</p> <p>教科書・</p>
第14回	<p>テーマ（何を学ぶか）：学校における安全管理</p> <p>内 容：教員としての心構え。学校現場での行動。授業時における危機管理。</p> <p>教科書・教員作成資料</p>
第15回	<p>テーマ（何を学ぶか）：公民科教育のこれから</p> <p>内 容：新学習指導要領の特色の理解から、公民教育について討論・考察する。</p> <p>教科書・教員作成資料</p>
試 験	<p>課題・レポート</p>

<b>〔科目名〕</b> 教育実習事前事後指導	<b>〔単位数〕</b> 1単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職科目(必修)
<b>〔担当者〕</b> 内海 隆・鈴木 郁生 Uchiimi Takashi・Suzuki Ikuo	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業時に提示する。 <b>場所:</b> 同上	<b>〔授業の方法〕</b> 講義・演習
<b>〔科目の概要〕</b> 春学期においては、教育実習事前指導として、教育実習で必要とされる基礎・基本の理解を中心に、実習教科の学習指導案(授業案)の作成および板書指導も含めた模擬授業の実践的な指導を行う。 秋学期の教育実習後の事後指導では、学校組織や生徒理解に努め、学習指導や生徒指導、特別活動の指導等に無理なく取り組むことができたかなどについて、実習報告の形式で総括し、教職実践演習につなげる。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 実習校での教育実習(2週間又は3週間)を経験することによって、教育実習生として高等学校の現場を理解するとともに自らの教師としての適性も考えることにつながる。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 教職課程の最終段階となる「教育実習」に臨むにあたって、学校の組織・運営や生徒指導および学習(教科)指導などの基礎・基本となる内容を確実におさえる。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 正規の授業回数の中で効果的な教育実習の事前・事後指導となるように努めるが、要望があれば応える。		
<b>〔教科書〕</b> 本学所定の『教育実習の手引き』、『教育実習日誌』のほか必要な資料を配布する。		
<b>〔指定図書〕</b> なし。		
<b>〔参考書〕</b> 必要に応じて提示する。		
<b>〔前提科目〕</b> 3年次までの教職専門教科及び「中等教科教育法(商業Ⅰ・Ⅱ)」、「中等教科教育法(公民Ⅰ・Ⅱ)」、「商業実習」		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 事前指導(模擬授業等、レポート)及び事後指導(実習報告発表、所定様式のレポート)、教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌などをもとに総合的に判断する。 なお、実際の評価にあたっては、2人の専任教員による。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> A: 100～80点 B: 79～70点 C: 69～60点 D: 59～50点 F: 49～0点		
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 本学の「教育実習」は、高等学校の教員免許取得を前提に、4年次に学内で行う事前指導と事後指導を内容とする本科目と、実際に学校現場に向かい行う実践的な「教育実習」からなる。したがって、教育実習に臨む者は、事前に教育実習の意義と目的、内容等の理解に努めるとともに、実習を効果的かつ充実したものにするための準備を十分しておくことが大切である。なお、実習校における教育実習終了後の事後指導としての実習報告も重視する。		
<b>〔実務経歴〕</b> 該当なし。		

授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導①            内 容:教育実習の目的と意義、教育実習の留意点</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』)</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導②            内 容:授業参観の方法と教材研究            『教育実習日誌』について</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』ほか)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導③            内 容:学習指導案作成と教材研究、板書計画、実習ビデオ鑑賞</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』、ビデオ視聴)</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導④            内 容:学習指導案作成と模擬授業(1)</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』ほか)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導⑤            内 容: 学習指導案作成と模擬授業(2)</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』ほか)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):事後指導①            内 容:教育実習アンケート調査、教育実習報告、報告レポート作成</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):事後指導②            内 容:教育実習報告、報告レポート作成</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)</p>
試験	<p>実施しない。事後指導時に指定の様式に即したレポート(教育実習報告)を提出する。</p>

<b>〔科目名〕</b> 教育実習	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職科目(必修)
<b>〔担当者〕</b> 内海 隆・鈴木 郁生 Uchiimi Takashi・Suzuki Ikuo	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> 実習
<b>〔科目の概要〕</b> 実習校(高等学校)での2週間(64時間。ただし、実習校によっては3週間の場合もある。)の教育実習である。教育実習の主な内容は、1)実習校による講話、2)学習指導に関するもの(授業観察・見学、教材研究、指導案作成、授業担当、研究授業等)、3)特別活動、生徒指導に関するもの(HR 参観、HR 指導案作成、HR 経営参加等)、4)学校の運営機構、教職員の職務の理解(校内研究・研修会、諸会議等の参加等)である。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕</b> 3年秋学期終了までに教職に関する科目の単位修得見込みであること、及び教育実習事前指導を履修すること。教育実習を経験することによって、教員への意欲と自覚を深め、また自らの教師としての適性も考えることにつながる。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 教職課程の総決算として、生徒理解や教科内容の理解、授業づくりなど、教師として必要な実践的指導力の基礎を身につけ、学校という組織の一員としての職責・義務を自覚して、教職への志向を確かなものとする。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 教育実習の事前指導における内容と実習校での実際とのギャップをできる限りなくすように配慮する。		
<b>〔教科書〕</b> なし。		
<b>〔指定図書〕</b> なし。		
<b>〔参考書〕</b> なし。		
<b>〔前提科目〕</b> 「教育実習事前事後指導」		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌、実際に作成し実施した学習指導案などをもとに総合的に判断するが、実際の評価にあたっては、教職課程担当の2名の専任教員による。 なお、新型コロナウイルス感染防止の影響により実習校での期日等の変更には、臨機応変に対応する。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> A: 100～80点 B: 79～70点 C: 69～60点 D: 59～50点 F: 49～0点		
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 教育実習の事前指導での教育実習全般の理解を深めたことをふまえて実習に臨むことを期待し、実習期間中においては、可能な限り実習校を巡回指導して実習校との意思の疎通を図り、実習の成果が上がるように努める。		
<b>〔実務経歴〕</b> 該当なし。		
授業スケジュール		
実習期間 (2～3週間)	教育実習校(高等学校)において、2週間ないし3週間の教育実習を行う。実習期間中においては、当該実習校で「ホームルーム指導」、「授業観察」や「研究授業」等を行う。	

<b>〔科目名〕</b> 教職実践演習	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職課程(必修)
<b>〔担当者〕</b> 内海隆・鈴木郁生 UCHIUMI Takashi・SUZUKI Ikuo	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業開始時に明示する <b>場所:</b> 614 研究室(鈴木)・504 研究室(内海)	<b>〔授業の方法〕</b> 演習
<b>〔科目の概要〕</b> 本科目は、多くの学生が教育実習を終えている4年生の秋学期に開講される。すなわち、教職課程の締めくくりとして位置づけられる科目である。この授業を通して、教員に必要な知識技能修得の確認、およびこれまでの学修を統合・深化し、実践的な力としてもらいたい。そのため、教職の意義や責任に対する意識、社会性や対人関係能力、生徒理解とHR経営、教科内容への理解と指導力などに関する主体的な学習の場とする。 具体的には、4年間蓄積してきた履修カルテを用いて自分の知識技能を確認し、学習すべき内容を自ら選ぶ。また演習を中心とし、学生の討論、発表などに重点をおくものにする。更に、教育実践に対する理解と意識を深めるために、模擬授業や学外での見学なども行う。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 「教職実践演習」の主旨は「当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものとする」となっており、本学でもこれを踏まえた授業展開を行う。そのため教職課程の全科目のまとめを行うことになる。教員としての資質・技能を見直し、将来手にする教員免許状に相応しい力を身につけて欲しい。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> これまでの学修の確認と深化を中間目標として掲げる。最終的には、高校教員としての豊かな資質、単に教科の指導力だけでなく、幅広い教養、社会的関心、人間関係形成のための基本的能力、対人関係を形作るコミュニケーション能力、生徒や子どもから信頼感を得られる人間性などを身につけることを期待する。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> おおむね良好な評価であった。今後も展開を工夫し改善に努めたい。		
<b>〔教科書〕</b> なし		
<b>〔指定図書〕</b> なし		
<b>〔参考書〕</b> 授業時に適宜紹介する。		
<b>〔前提科目〕</b> なし。 ただし、履修カルテの記入が条件となる。そのため授業開始前に、履修カルテを完成させておくこと。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 期末レポートによる評価を行う。また、各回の授業における課題や取り組みも評価の対象とする。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> A: 100～80点 B: 79～70点 C: 69～60点		

D: 59～50点

F: 49～0点

**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**

学生自身が考え、理解を深めていけるように学生の主体性を引き出す授業を心掛けたい。受講者も未来の教師として、積極的に課題に取り組んでもらいたい。

**〔実務経歴〕**

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション・模擬授業準備 内 容:授業展開についてのオリエンテーションを行う。そして、次回以降の模擬授業の内容を決め、授業展開を考察する。  教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):模擬授業準備 内 容:模擬授業にむけて、資料および指導案作成を行う。  教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):模擬授業1 内 容:選択した教科・科目について、模擬授業を行う。  教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):模擬授業2 内 容:選択した教科・科目について、模擬授業を行う。  教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):教職に関する学修の振り返り 内 容:履修カルテを基に、教職課程に関する学修の振り返りを行う。  教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):学習テーマの設定 内 容:教職課程に関するグループ学習を行う。そのテーマは、各自履修カルテを基に設定する。  教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):調査結果のグループ内発表及び討論 内 容:調査したテーマについて、グループ内で発表し、討論を行う。  教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):調査結果の発表および討論 内 容:調査したテーマについて、授業全体での発表を行う。また、学外学習についてのガイダンスも行う。  教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):学外学習 内 容:学外施設を訪問し、見学学習を行う。  教科書・指定図書

第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):学外学習          内 容:学外施設を訪問し、見学学習を行う。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):学外学習の振り返り          内 容:グループ活動として、学外学習についての振り返りを行う。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):学外学習の振り返り          内 容:グループ毎に学外学習について討論し、それを基にした発表を行う。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):教材作成          内 容:特定のテーマについてグループ毎に教材を作成し、幅広い授業・HR 展開について考察する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):教材作成・発表          内 容:作成した教材について発表、模擬授業を行う。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):教職に関する資質能力の確認と総括          内 容:授業での学習内容と履修カルテを基に、教職に関する各自の資質能力を確認し総括する。</p> <p>教科書・指定図書</p>

<p>[科目名] 法律と人間</p>	<p>[単位数] 2単位</p>	<p>[科目区分] 教養科目 第2群(文化と社会)</p>
<p>[担当者] 高橋 基樹 TAKAHASHI, Motoki</p>	<p>[オフィス・アワー] 時間:開講時に指示する。 場所:617 研究室</p>	<p>[授業の方法] 講義形式中心</p>
<p>[科目の概要] 本科目ではまず、「法」とは何か、「法律」とはどのようなものであるか、その両者に差異はあるのか、なぜ私たちは「法」や「法律」を遵守すべき必要があるのかについて検討しながら解説する。そしてこの「法」や「法律」によって、私たちは「人権」を保障されていることから、「人権」保障と「法」・「法律」との関係性について探る。そのうえでキーワードとするのが、「マイノリティー」と人権保障との関係である。本科目で用いる「マイノリティー」は単に少数者を意味するのではなく、現代社会において支配関係の中に閉じ込められてしまっている人々のことを意味する。そのため、これに属する人々や集団は、政治的な抑圧、経済的搾取、社会的な差別等によって不利なあるいは恵まれない境遇に現在も置かれている。そこで、この「マイノリティー」の定義について学んだうえで、現代の日本社会および日本の法制度の中で彼らがどのような人権侵害を受けているのか、その現状を理解し、彼らの問題をどのように解決すべきか、「法」や「法律」で解決や対応が可能であるのかについて、本授業の講義・討論等を通じて受講生一人一人が考察する機会を提供する。</p>		
<p>[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか] 現代の日本社会においては、私たちは「法律を遵守すべき」と一般的に考えられているが、なぜそう捉えられているのかを考える必要があるように思われる。また、「法律」が存在する意義の1つとして考えられる「人権」保障との関係から、現代の日本社会において、適切に「人権」が保障されているのかを考えることを通じて、現代にも残存する問題が存在していることを認識することに繋がるであろう。そしてこうした現代的な問題についてはどのような解決が必要か、それを法学的に考察することは、「法」および「法律」と「人間」との関係性を認識することになるであろう。</p>		
<p>[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 第一に、「法」と「法律」との関係性を理解することを中間目標とし、最終的には以下の事項を習得することを最終目標とする。 1、「法」および「法律」の存在意義について認識する。また「法」と「法律」との差異についても理解する。 2、「法」および「法律」と「人権」保障との関係について理解する。 3、現代の日本社会における「法律」の機能について認識し、そこで生じている問題の解決方法を考察する。</p>		
<p>[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 本科目では、「法学」をめぐる抽象的な説明から、具体的な「法律」をめぐる事例を用いた講義に繋げていくことを予定している。そのため今年度も、本科目での講義内容の理解の定着を促すために、重要な点について繰り返し説明を行うことや、履修者自身の意見や考えを聞く機会を設ける予定である。この点について、昨年度の授業評価アンケートでは、復習に時間をかけることで知識の定着がはかれるとの好意的な意見があった一方で、この部分を短縮化して新しい点についての講義を希望するとの意見もあった。そこで、履修者が講義内容を理解できているかについて教員がしっかり把握できるように心がけながら、講義の進行ペースを考えて講義する予定である。加えて、授業評価アンケートでは担当教員の講義中の声量の大きさに関する指摘もあった。適切な講義の受講環境を提供できるようにするため、この点については気をつける。なお今年度も(時間的に余裕があれば)、講義内容をより深く理解するために、現実問題に関する映像資料の視聴機会を設けることを予定しているが、この映像資料では、やや攻撃的な内容を含むものである。そのため、これを使用する場合、その目的として、現実問題として、こうした攻撃的な側面が残されており、法律における対応が不十分な可能性があることを認識してもらい機会を提供したいと考えている旨と、履修者によってはこれが不快に感じる方もいると思われるため、強制的に視聴させるのではなく、さまざまな配慮を行ったうえで、この映像資料を活用できるようにしたい。なお履修者には、本科目で取り扱う内容への積極的な興味・関心をもってもらえることを期待する。</p>		
<p>[教科書] 特に教科書指定を行わない。</p>		
<p>[指定図書] 講義中に紹介する。</p>		

<p><b>【参考書】</b>  萩原重夫『法と少数者の権利』（明石書店、2002年）／木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』（星海社新書、2012年）／宍戸常寿（編）『18歳から考える人権』（法律文化社、2015年）／中央大学法学部（編）『高校生からの法学入門』（中央大学出版部、2016年）／辻村みよ子『概説 ジェンダーと法（第2版）』（信山社、2016年）／榎沢幸広・小川由美子（編著）『Qからはじめる法学入門』（みらい、2017年）／大津浩・大藤紀子・高佐智美・長谷川憲『新憲法四重奏 第二版』（有信堂、2017年）／斎藤一久・堀口悟郎『図録日本国憲法』（弘文堂、2018年）など。上記以外は講義中に紹介する。</p>	
<p><b>【前提科目】</b> なし</p>	
<p><b>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)</b>  定期試験の結果だけでなく、通常授業時における受講生の講義内容の理解度や積極的な出席態度を評価対象として、総合的に評価する。すなわち、通常授業時におけるコメント・ペーパーの提出に基づいた評価も行うということである。またこの通常授業時における講義内容の理解度の把握方法については論述形式で行うが、定期試験においても同様に、主に論述形式で行う。換言するに、講義内容の理解度については、履修者自身でその内容を文章化できるかどうかを中心に成績評価を行う。</p>	
<p><b>【評価の基準及びスケール】</b>  学期末の定期試験（60%）、授業への積極的な参加度（40%）により評価を行う。授業への積極的な参加度とは、授業内容に対する理解を通常授業の中で、コメント・ペーパー（主に文章形式での解答を求めるもの）を活用して評価する。この詳細な成績評価方法については、第一回目の授業の際に説明するため、出席すること。50%以上取得した者に対して単位認定する。  なお上記の成績対象においては、「法律」を学ぶことに対する積極的な意義を理解ができているかどうかを主な評価基準であり、その上で、自身の意見や考え方を有することができているかどうかを補足的な評価基準である。</p>	
<p><b>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</b>  本授業では、単に「法学」に関する講義を行うだけではなく、現代における法的な問題を理解してもらうための具体的な資料（たとえばDVDやビデオといった視聴覚資料等）を提示し、それに対する意見を述べてもらうなど、双方向型の授業も行う予定である。そのため、コミュニケーション・ペーパーでの意見提出等も予定しており、受講生には授業に対する理解と積極的な参加が求められる。  また、授業内容については、授業の進捗を勘案して適宜調整することがある。加えて、受講者の習熟度によっては、授業内容を変更することもある。</p>	
<p><b>【実務経歴】</b> 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ガイダンス・社会科学としての法学・法的思考の在り方  内 容： 初回ガイダンスをかねて、社会科学の一分野に位置づけられる「法学」という学問について、「政治学」、「経済学」、「社会学」といった学問分野との比較・関係から検討する。また、「法学」を学ぶ上で前提となる、「法的思考」とはどのようなものであるべきかということや、「法」とはどうあるべきかについて解説する。  教科書・指定図書 レジュメを配布予定。準備学習として、「法学」とはどういった学問なのか、イメージをもって臨むこと。また、<u>本シラバスに基づいたガイダンスを行う予定のため、本シラバスを必ず持参</u>のこと。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 「法」と「法律」の意味と立法権(国会)  内 容： なぜ「法律」とは遵守すべき必要があるのかについて解説をしたうえで、この「法律」を制定する立法権について解説し、国会という国の統治機構について講義する。そして「法」と「法律」との関係性や差異について考察する。  教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 立法権と選挙制度との関係  内 容： 立法権を有する代表機関がなぜ立法を行えるのか、選挙制度との関係から解説する。またこの立法府の構成員である国会議員の地位についても確認する。  教科書・指定図書 教科書 講義中に紹介する。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 司法機関(裁判所)による法律に対する憲法判断と裁判事項  内 容： 「法律」の是非について、憲法判断を行う司法機関の役割との関係から解説する。加えて、日本の裁判所が判断できる事項とは何かについても、司法府の役割との関係から考察する。  教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):人権保障の意義とマイノリティーの存在</p> <p>内容:「法律」による「人権」保障がなされることがなぜ必要であるのかについて解説し、なぜ十分に人権が保障されず、支配関係の中に置かれる「マイノリティー」が現代社会において存在しているのか検討し、理解する。</p> <p>教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):被疑者・受刑者の人権保障と死刑制度の問題</p> <p>内容:犯罪の被疑者や受刑者に対する人権保障とはどのようなものとしてあるべきかについて、日本の現在の「法律」や法制度との関係から検討する。そして、その生命を国家が奪う死刑制度の存置問題についての検討も行う。</p> <p>教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):被差別集団に対する法的な差別の問題</p> <p>内容:日本に根付いてきた差別意識によって、差別を被ってきた集団の存在を確認し、彼らはどのような法的差別を受けてきたのかについて解説する。そして、「法律」によるこの解消が可能か検討する。</p> <p>教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):少数者意見の表明とその保障の問題</p> <p>内容:人権保障から導かれる意見表明の保障の在り方について解説する。そしていかなる意見の表明も人権として保障されるのかについて、現行の日本の「法律」や法制度との関係から考察する。</p> <p>教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):男女平等と法の下での平等との関係</p> <p>内容:性別に関係なく、「人」として平等に人権が保障されるためには、「法律」がどのように機能すべきかについて検討する。またジェンダー問題とは何かについて学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):性的マイノリティーの人権保障の問題</p> <p>内容:「LGBT」や性的マイノリティーの人権保障の在り方の1つとして、「同性婚」が現代の日本社会の中で立法できるかについてを主に検討する。また、「同性婚」の確立のみが性的マイノリティーの問題解決であるかについても検討する。</p> <p>教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):子どもの人権保障と人権制限との関係</p> <p>内容:現代の日本社会における成人・未成年の法律上の区分に基づいた人権保障のあり方について考察する。そのうえで、現行の日本の法制度における成人・未成年を切り分ける年齢に基づく区分は妥当であるかについて考察する。</p> <p>教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本における地方問題と法律との関係</p> <p>内容:現代の日本社会における首都圏・地方との間における法律上の区分問題について取り上げて解説し、どのような法律上の解決が可能かを検討する。</p> <p>教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):グローバル化と人権保障の問題</p> <p>内容:現代社会においては、国境を超越する人の交流や物の移動などが進展している。こうしたグローバル化の中で生じる人権問題について解説する。そしてグローバル化と「法」および「法律」との関係について考える。</p> <p>教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):定住外国人の人権保障と共生の問題</p> <p>内容:現代の日本社会における定住外国人の人権保障の問題を、特に「ヘイト・スピーチ」との関係から捉え、どのような人権保障がなされるべきかについて検討する。</p> <p>教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):移民の人権保障と共生の問題</p> <p>内容:グローバル化が進展する中で、現代の日本社会における非国籍保持者の人権保障とはどのようなものとしてあるべきかについて考察する。そのうえでこうした問題にどのような法的対応が可能であるかについて検討する。</p> <p>教科書・指定図書 講義中に紹介する。</p>
試験	<p>定期試験(試験までの講義回の講義内容を範囲とした、論述式の問題を予定)</p>

<b>〔科目名〕</b> 宗教哲学	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 教養科目
<b>〔担当者〕</b> 井川 昭弘 Akihiro Ikawa	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 講義前後 <b>場所:</b> 教室、非常勤講師室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 今日、我々は「安全、安心」を保障するかのような「管理社会」に住んでいるともいえよう。しかし、そこにおいては「善く生きる」という西洋倫理学および洋の東西を問わず宗教の古典的テーマと言える問題が把握しづらくなっているように思われる。また、近年のコロナ禍を挙げるまでもなく、そうした「管理社会」の破綻の危機やそこにおける生のある種の息苦しさは、多くの者が感受していることであると思われる。 この講義は世界の諸宗教に哲学的反省を加えるというアプローチではなく、「善く生きる」とは何であるかという人間の素朴な実存的関心を基盤としながら、宗教と一体化した古典的な西洋倫理学の「善き生」の探求を振り返るとともに、現代の「死生学」分野における死に至るまでの「善き生」の探求をまずは学びたい。 そのうえで、現代の「管理社会」の主要な「キャラクター」(A.マッキンタイア)である「心の専門家」の「善き生」の探求を、V.E.フランクル、神谷美恵子、E.キューブラー＝ロスの三名から取り上げることで、現代の「管理社会」における「善き生」の探求の姿に触れてみたい。 最後に、古代から近世に至る古典的な西洋哲学・倫理学の背後にあるユダヤ・キリスト教について、「キリスト教哲学」の視角から旧約・新約聖書を読み解くことで、可能な限り学んでみたい。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> この科目を学ぶことの第一の意義は、現代を生きる我々の人生の目的、意味を考えることにあると思う。それを現代社会の状況や、現代の思想家の言説を踏まえて学ぶことで、万人にとっての普遍的な人生の問題を考える手がかりを提供できるように思う。 また、社会諸科学を学ぶ際に、その前提となる人間というものの理解を深めるという意義があるように思われる。それは、社会科学を捉える際の前提を反省することになるように思われるし、社会科学を学ぶ自己に反省を加えることになるように思われる。 さらに、新旧約聖書を学ぶことは、近代的な社会科学を生み出した西洋文明の根幹を学ぶことになるという意義があると思う。こうした点は、看過されがちな問題であるので、本講義の意義もあるように思われる。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 中間目標:① 古代～近世までの西洋倫理学の概要を理解する。 ② 現代の死生学の概要を理解する。 ③ 神谷美恵子、V.E.フランクル、E.キューブラー＝ロスの思想の概要を理解する。 ④ 旧新約聖書の主なエピソードの概要を理解し、そこから宗教的メッセージを読み取る。 最終目標:「官僚制的個人主義社会」(A.マッキンタイア)とも形容される現代社会において、「善く生きる」とはどういうことか、自分なりに信念を持つ手掛かりを授業内容から見出す。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 本校での授業は今回が初回であるが、これまでの経験から言うと、スライド資料や DVD 資料を用いて要点の分かり易い授業にしたい。またマイク使用に注意して音声の聞き取りやすさにも留意したい。		
<b>〔教科書〕</b> 教科書は指定しないが、授業の後半部分では各自、旧約・新約の収録された「聖書」を持参すること。なお「聖書」に関しては、日本聖書協会から出版されている各サイズの(ただし新約のみは不可)「新共同訳聖書」ないし「聖書協会共同訳」がスタンダードである。		
<b>〔指定図書〕</b> V.E.フランクル(山田他訳)『それでも人生にイエスという』春秋社、1993年。 神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房(神谷美恵子コレクション)、2004年。 E.キューブラー＝ロス『ライフ・レッスン』角川文庫、2005年。 共同訳聖書実行委員会『小型聖書 旧約続編つき』日本聖書協会、1988年。		
<b>〔参考書〕</b> 授業時に適宜指示する。		
<b>〔前提科目〕</b>		

特になし。	
<b>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)</b> 期末試験で行う。スライド資料の穴埋め欄が試験範囲となる。適宜リアクションペーパーを課すことがありうる(その場合リアペの得点は最大10点程度)。なお、欠席が授業回数の3分の1を超える者には期末試験受験資格が与えられない。	
<b>【評価の基準及びスケール】</b> 評価 得点比率 A 80%～100% B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 50%～60%未満 F 50%未満	
<b>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</b> この授業は、教員からの問いかけと学生の皆さんからの応答から成り立っている。したがって、教員からの発問には自由に積極的に答えてもらいたいし、たとえ発言がなくても授業内容について授業後に自分なりに消化・反芻して、思考を深めてもらいたい。人間の「生きる」ことは万人にとって問題であるのだから。 また内容が多岐にわたるので、欠席すると理解が困難になると思われ、なるべく欠席しないよう要請したい。	
<b>【実務経歴】</b> 特になし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション、現代日本人の「無宗教」について 内 容: 全体の授業概要、成績評価方法、必要書籍などについて説明する。 多くの日本人が自らを「無宗教」と規定することの意味、「無宗教」とは何であるのか考えてみる。 教科書・指定図書: なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第2回	テーマ(何を学ぶか): 生きる意味と宗教 「善き生」の探求の歴史① 内 容: 人が求める生きる意味ないし目的を考察するうえで、「善き生」について探求した西洋倫理学の歴史を古代から中世まで概観する。 教科書・指定図書: なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第3回	テーマ(何を学ぶか): 生きる意味と宗教 「善き生」の探求の歴史② 内 容: 人が求める生きる意味ないし目的を考察するうえで、「善き生」について探求した西洋倫理学の歴史を中世から近世まで概観する。 教科書・指定図書: なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第4回	テーマ(何を学ぶか): 生きる意味と宗教 「死生学」の問題意識① 内 容: 死の本質論など、死生学の基本問題を学ぶことで、「善き生」についてさらに考察を深める。 教科書・指定図書: なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第5回	テーマ(何を学ぶか): 生きる意味と宗教 「死生学」の問題意識② 内 容: 「死者との実存共同」など、死生学の基本問題を学ぶことで、「善き生」についてさらに考察を深める。 教科書・指定図書: なし(配布資料を用いる、参考図書は適宜示す)
第6回	テーマ(何を学ぶか): E.キューブラー＝ロスについて 内 容: E.キューブラー＝ロスの晩年の著作『ライフレッスン』から「善き生」について考える。また彼女の死生学分野への貢献も学ぶ。 指定図書: E.キューブラー＝ロス『ライフレッスン』
第7回	テーマ(何を学ぶか): 神谷美恵子について 内 容: 神谷美恵子の名著『生きがいについて』から「善き生」について考える。また彼女のハンセン病患者との関りについて学ぶ。 指定図書: 神谷美恵子『生きがいについて』

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):V.E.フランクルについて</p> <p>内 容:V.E.フランクルの『それでも人生にイエスという』から「善き生」について考える。また彼のアウシュビッツ体験について学ぶ。</p> <p>指定図書:V.E.フランクルの『それでも人生にイエスという』</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界⑥</p> <p>内 容:『旧約聖書』「創世記」から、人間の原初の状態と歴史的世界への移行の物語を学ぶ中で、人間と神の基本的な関係について考える。「天地創造」～「バベルの塔」まで</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界⑥</p> <p>内 容:『旧約聖書』「創世記」から、人間の原初の状態と歴史的世界への移行の物語を学ぶ中で、人間と神の基本的な関係について考える。「アブラハムの召命」～「ヨセフ物語」まで</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界⑥</p> <p>内 容:『旧約聖書』「出エジプト記」から、イスラエル民族のエジプトよりの解放とシナイ契約の物語を学ぶことで、人間の自由の意味と道徳律の関係について考える。</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):古代ユダヤ教の世界⑥</p> <p>内 容:『旧約聖書』「イザヤ書」から、「インマヌエル預言」「苦難の僕」などの個所を学ぶことで、歴史的世界における希望について考える。</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):キリスト教の世界⑥</p> <p>内 容:『新約聖書』「福音書」から、「救世主イエス・キリスト」の出自から宣教活動への流れを学ぶことで、『旧約聖書』との連続性、「救い」ということの歴史的世界における実現について考える。</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):キリスト教の世界⑥</p> <p>内 容:『新約聖書』「福音書」から、「救世主イエス・キリスト」の教えと業の物語を学ぶことで、『旧約聖書』との連続性、「救い」ということの歴史的世界における実現について考える。</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):キリスト教の世界⑥</p> <p>内 容:『新約聖書』「福音書」から、「救世主イエス・キリスト」の「死と復活」の物語を学ぶことで、人間の生命の実相について考える。</p> <p>教科書・指定図書:日本聖書協会『新共同訳聖書』</p>
試験	<p>配布されるスライド資料の穴埋め箇所から出題されるので、資料をきちんと綴じて保管して、試験前に見直すこと。</p>